



居心地の良さ

にわかに空の高さを仰ぐころとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年は、6月～8月の平均気温は平年の2.3℃上回っており、1898年の統計以来、最も暑い夏とニュースで発表されていました。例年にない状況でしたが、ご利用者・職員及び地域の皆様健康が支えられておりますことを感謝いたします。

先日、知人に会う機会がありました。その人は一人暮らしで生活する中、がんと診断されましたが、様々な人との関係性の中で最善の医療機関につながることで、治療を受けました。その際、主治医との出会いにより予後を確認すること、今は安心して生活しています。「本当に恵まれた出会いができ、神様に感謝しています」と笑顔で話している姿を見て、その人の前向きな生き方に感動しました。

2025年8月24日と25日の朝日新聞に、昨年5月に肺がんと診断され、今年4月には再発がわかった解剖学者の養老孟司先生と癌研有明の腫瘍内科医高野利実先生との対談が記されています。記事では、がんを患っている養老先生が、『人は病気になって死ぬ』と語

り、それを「人の自然」と呼んでおられることが紹介されていました。また、「死を思うからこそ、いまこのときを生きる」と未来の病気や死にとらわれるのではなく、「今日をどう生きるか」と考えておられること。自分らしく生きるために居心地のいい状態を探し続けているとのことでした。

高野先生から「いま幸せですか？」との問いに対して養老先生が「はい」と即答されたこと、「幸せ」というより、「居心地の良さ」だと言っていたのも先生らしさであると感じられており、医療は人の幸せ（居心地の良さ）のためにあると記されていました。

「この言葉は福祉にも通じると考えています。医療も福祉も人の生活を支えるものであり、「居心地の良さ」を提供します。医療と福祉がお互いに協力し、お互いの強みを生かすことで、自分らしく暮らせる「居心地の良さ」を提供できるのではないのでしょうか？」

今後もご利用者が自分らしく生活できる「居心地の良さ」を目指して、地域の皆様に向き合っていきたいと願っております。

施設長 高原 信夫

利用者様の温かみあふれる手作り作品



施設では、利用者それぞれの作品に個性や工夫が込められており、細部にまで心を込めて丁寧に仕上げられています。

作品づくりを通して手先を動かすことは、リハビリ効果が期待できるだけでなく、完成

した作品に対する達成感や喜びが、利用者の心の活力にもつながっております。

完成した作品は季節ごとの飾りとして施設内を彩り、さまざまな形でご家族やスタッフからも大変高い評価をいただいております。今後も、創作活動を通じてご利用者の心身の健康と生活の彩を支えてまいります。

4階副主任 ムハンマド アムリン

第 302 号

令和7年9月 15 日発行

(毎月1回 15 日発行)

責任者:施設長 高原 信夫

〒241-0802

横浜市旭区上川井町 1988

社会福祉法人アドベントスト福祉会

シャローム横浜

☎045-922-7333

編集委員 荒金・石川・石橋

[https://www.adventist-](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)

[welfare.jp/yokohama/](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)



暑すぎて蚊が少ない夏 ～秋や夜の気温が下がる時期はご注意を～



今年は雨が少ない日が多いですが、猛暑日においてもいつもの年より多く、今年の夏は蚊がいつもより少ないとのことでした。

蚊の活動時期には気温が大きく関係しており、22℃から30℃と言われている為、真夏よりは初夏や秋ごろの方が刺されるのを注意したほうが良さそうです。

また気温が下がる夜にも蚊が活発になる為、夏は昼だけでなく夜にもお気を付けください。

ケアマネジャー 古澤 広行

ピザパーティー

9月7日は、栄養課の行事としてピザパーティーを行いました。

今回は、河原職員がピザ担当で、2種類のピザを入居者の皆さまにお出しいたしました。

ピザの内容は、ベーコン、シーフード、玉ねぎ、パプリカ、チーズの【ミックスピザ】と、明太子、万能ねぎ、海苔、マヨネーズ、チーズの【明太マヨネーズピザ】でした。

入居者の皆さまも喜んで、楽しそうに召し上がっていました。

10月の栄養課主催の行事食は、ラーメン屋台を予定しております。どうぞお楽しみに。

栄養課 課長 小寺 秀偉



地域との繋がり、シャロームデイ

第210回 チャプレン 上前 至

8月29日(金)に警察庁が一つの統計を発表した。私はその数字を見てショックを受けた。それは今年の上半期(1月～6月)までに自宅で亡くなった一人暮らしの人が全国で4万913名であったという。この数字は、このままだと、今年の後半までに8万人以上の一人暮らしの方が亡くなる見込みである。しかもこれだけでも衝撃的な事であるが、さらに衝撃的なことはこの死者数の中に「孤独死」といわれる、死亡後8日以上経って初めて発見された人が1万1,669人あったという事である。これは一人暮らしで亡くなった4万人の死者数の内、3割近くを占めるという。しかも孤独死は減るどころか年々増えているという。

これらの数字から言えることは日本社会からコミュニティ、地域の「つながり」というものが急速に減りつつある現状を感じさせられるのは私だけだろうか。現に私が住んでいるマンションの住民の一人

が「孤独死」していたが、それを自治会の広報で始めて知ったとのこと。昔と比べて、日本社会から地域のつながりが本当に希薄になっていると痛感する」。昔がすべて良かったとは思わない。しかし、少なくとも昔はよほどのことがない限り「孤独死」というような事は聞かなかった。以前はそうした状況になっている人を見つけたら周りの誰かが気づき、世話をしていたように思う。そうした「気づき」が薄くなっていることが今、日本で「孤独死」が増えている一番大きな原因ではないだろうか。

今年、11月2日(日)シャロームデイが催される事が決定された。このイベントが地域との繋がりを少しでも回復させていく機会となることを切に願うものである。皆様の来場を心よりお待ちしております。つ……。 「人を潤す者は自分も潤される」 箴言 11:25

